医政安発 1113 第２号
令和７年 11 月 13 日

別記関係団体の長　殿

厚生労働省医政局地域医療計画課
医療安全推進・医務指導室長
（ 公 印 省 略 ）

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポートNo.４の公表について

医療行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

医療事故調査制度につきましては、平成27年10月から、医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、医療事故調査・支援センター（以下「センター」という。）において、その調査報告を収集し、整理・分析することで医療事故の再発防止につなげ、医療の安全を確保することを目的として実施されております。

また、センターは再発の防止に関する普及啓発を行うこととされており、今般、医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.４として、「気管切開術後早期のチューブ逸脱・迷入による死亡」（以下「レポート」という。）が公表されましたのでお知らせします。

貴職におかれましては、同様の事例の再発防止及び発生の未然防止のため、レポートの内容を御確認の上、貴会会員施設等に対する周知をお願いします。

レポートにつきましては、センターのホームページ（https://www.medsafe.or.jp/）にも掲載されていますことを申し添えます。

〈別記〉

国家公務員共済組合連合会理事長
社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
社会福祉法人北海道社会事業協会理事長
公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会会長
公益社団法人全国自治体病院協議会会長
公益社団法人全日本病院協会会長
総務省自治行政局公務員部福利課長
公益社団法人日本医師会会長
一般社団法人日本医療法人協会会長
公益社団法人日本看護協会会長
公益社団法人日本助産師会会長
公益社団法人日本歯科医師会会長
一般社団法人日本私立医科大学協会会長
公益社団法人日本精神科病院協会会長
一般社団法人日本病院会会長
日本病院団体協議会会長
公益社団法人日本薬剤師会会長
全国厚生農業協同組合連合会代表理事長
日本赤十字社社長
独立行政法人労働者健康安全機構理事長
独立行政法人国立病院機構理事長
一般社団法人日本慢性期医療協会会長
一般社団法人全国公私病院連盟会長
一般社団法人国立大学病院長会議事務局長
健康保険組合連合会会長
公益社団法人日本歯科衛生士会会長
公益社団法人日本歯科技工士会会長
一般社団法人日本病院薬剤師会会長
公益社団法人日本診療放射線技師会会長
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会会長
日本製薬団体連合会会長
公益社団法人日本臨床工学技士会理事長
一般財団法人医療関連サービス振興会会長
公益社団法人全国ビルメンテナンス協会会長
公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会会長
一般社団法人日本衛生検査所協会会長
一般社団法人日本病院寝具協会理事長
一般社団法人日本精神科看護協会会長
防衛省人事教育局衛生官
公益社団法人全国老人保健施設協会会長
国立研究開発法人国立がん研究センター理事長
国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事長
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター理事長
国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長
国立健康危機管理研究機構理事長
宮内庁長官官房秘書課長
法務省矯正局矯正医療管理官
一般社団法人全国医学部長病院長会議会長
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事長
独立行政法人地域医療機能推進機構理事長
公益財団法人日本医療機能評価機構理事長
公益社団法人日本産婦人科医会会長
日本医学会会長
一般社団法人日本看護系学会協議会会長
日本歯科医学会会長
一般社団法人日本医療薬学会会頭
一般社団法人医療の質・安全学会理事長
一般社団法人医療安全全国共同行動議長
一般社団法人日本美容外科学会（JSAPS）理事長
一般社団法人日本美容外科学会（JSAS）理事長
一般社団法人日本医療安全学会理事長

医療事故の再発防止に向けた
警鐘レポートNo.4

医療事故調査・支援センター
Medical Accident Investigation and Support Center
2025年11月

気管切開術後の患者ケアに関わる医療従事者の皆さまへ

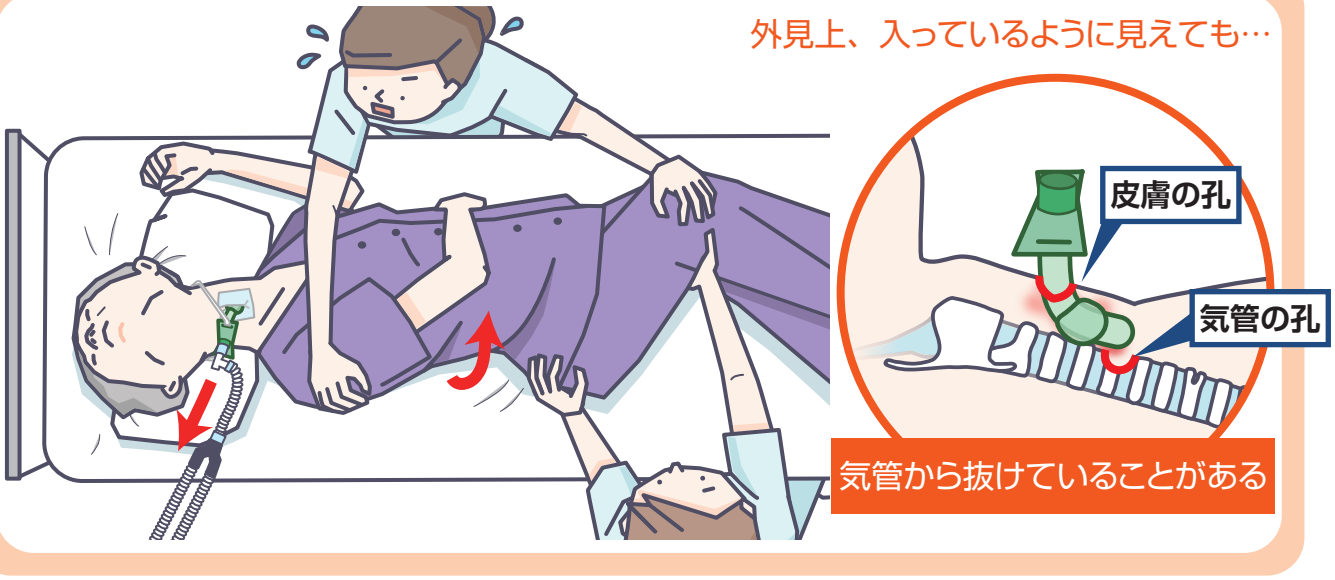
提言第４号
続報

気管切開術後早期のチューブ逸脱・迷入による死亡

提言第４号（対象事例５例）の公表（2018年）以降も
術後２週間以内に逸脱・迷入が発生し死亡した事例が21例報告されています。

体位変換時の発生が15例/21例

※対象事例の概要はこちら



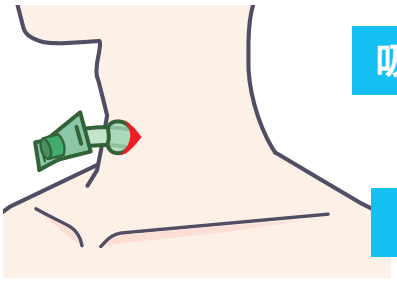
体位変換時のポイント

※イメージ図（体位変換の手順を示すものではない）

提言第４号
続報

気管切開術後早期のチューブ逸脱・迷入による死亡

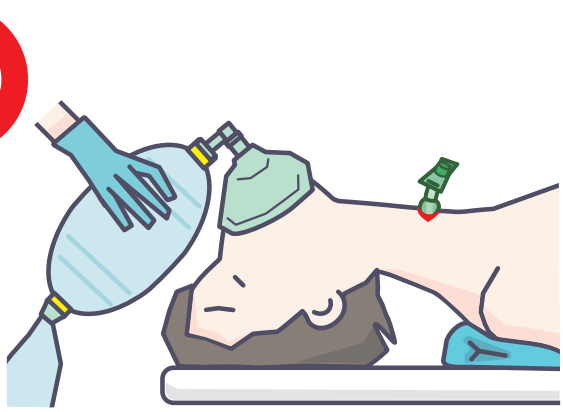
逸脱・迷入が疑われる徴候



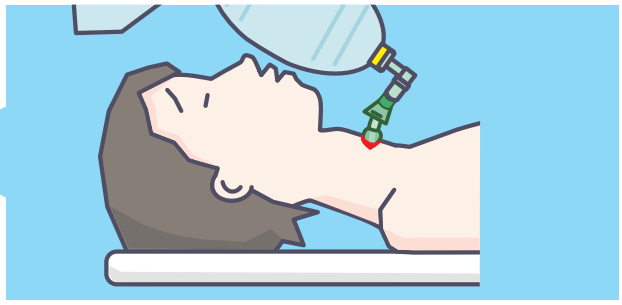
- 声がもれる
- 吸引しにくい、できない
- カフが見える
- 低換気アラーム

逸脱・迷入が疑われる時の対応

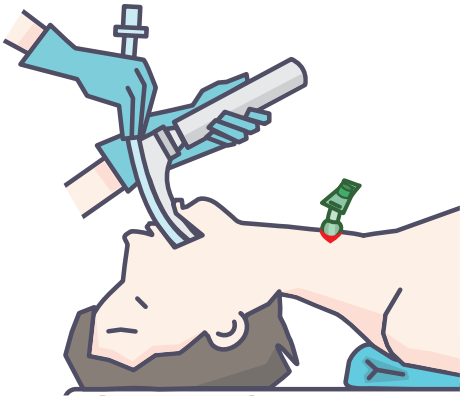
① 経口換気を行う



チューブからの送気は
皮下気腫、緊張性気胸のリスクを高める

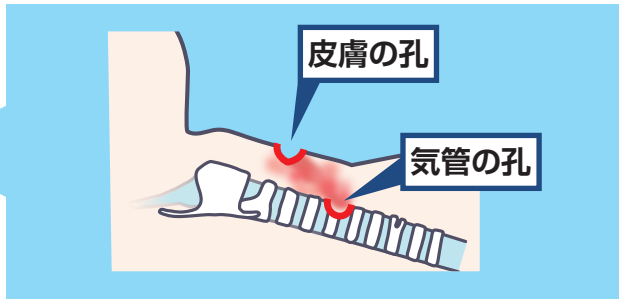


② 経口挿管に切り替える



気管切開チューブの再挿入に固執しない

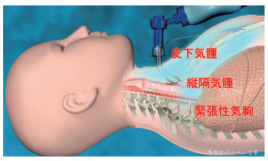
チューブの再挿入は難しい



- 「皮膚の孔」と「気管の孔」の位置がズレている
- 術後２週間程度はろう孔が不安定
  （肉芽形成が不十分）

提言第４号「気管切開術後早期の気管切開チューブの逸脱・迷入に係る死亡事例の分析」

動画



■ 逸脱・迷入を疑う状況での
再挿入・換気の危険性等

再生時間：約５分

提言書

＊警鐘レポートは、専門家で構成された専門分析部会が検討・作成し、再発防止委員会で承認されたものです。
＊警鐘レポートは、報告された死亡事例をもとに、死亡に至ることを回避するという視点で作成しており、これらの対策ですべての事象を回避できるものではなく、また、個別の患者の状況等によりこれらの対策が困難な場合や、最善でない場合も考えられます。
＊この内容は将来にわたり保証するものではなく、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするためのものではありません。